

地区：南三陸町 震災語り部 震災遺構・伝承施設

ジャンル：震災語り部 バス案内

対象：教育
旅行団体
旅行

南三陸町観光協会 語り部による学びのプログラム



学びのポイント

- ・講話のみ、バス案内のみ、または両方を組み合わせるなど、目的や人数に応じた実施が可能で、教育旅行をはじめ幅広い学習ニーズに対応しています。
- ・語り部を務めるのは、観光ボランティアガイド「ガイドサークル汐風」をはじめ、震災伝承施設「南三陸311メモリアル」の職員や町議員など、震災後も町に暮らし続け、復興の過程を見つめてきた地域住民です。住民のリアルな声に触れることで、震災を自分ごととして捉え、防災・減災や命の大切さについて考えるきっかけを得ることができます。
- ・復興に向けて歩み続ける地域の人々の姿に触れることで、困難に向き合う姿勢や力を学び、将来の生き方について考えることができます。

1. 内容

説明	<p>南三陸町の震災語り部プログラムは、震災前の観光キャンペーンを契機に、住民が地域の魅力を学び、発見することを目的として誕生した観光ボランティアガイド「ガイドサークル汐風」の活動を出発点としています。</p> <p>汐風は当初、地域の魅力を伝える観光ガイドとして活動していましたが、東日本大震災の発生を受け、震災からわずか2か月後の2011年5月より、被災地の現状や自身の体験を講話形式で伝える取り組みを開始しました。さらに同年8月には、講話にバスでの現地案内を組み合わせ「語り部による学びのプログラム」へと発展し、現在の語り部活動へとつながっています。</p> <p>現在は、汐風のメンバーをはじめ、地域づくりや震災伝承に関わってきた多様な立場の人々が語り部を担い、プログラムを通して、参加者が震災を過去の出来事として捉えるのではなく、自分自身のこととして向き合いこれからの生活や防災への備えにつなげていけるよう、語り部それぞれの経験や視点から学びを伝えています。</p> <p>※講話は自身の体験と震災から得た教訓が中心となります。町の復興計画や津波についてのメカニズム等、専門的な内容は提供していません。</p>
実施形態	<p>ご要望に応じて次の形態で行います。講話は南三陸町観光協会指定の会場にて実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 講話(座学)+バス車窓案内 ② バス車窓案内のみ ③ 講話のみ

2. プログラム情報①

所要時間	① 講話+バス車窓案内：120分～150分(講話60分+バス車窓案内60分～90分) ② バス車窓案内のみ：60分～90分 ③ 講話のみ：60分
催行人数	10名～120名 ※121名以上の場合は、入れ替え制で対応可能な場合あり
実施可能時間	9時～17時 ※冬季(12月～2月)は9時～16時
定休日	年末年始 ※その年によって年末年始の定休日が異なるので、南三陸町観光協会HPで確認してください
予約	南三陸町観光協会公式HPの問合せフォーム、メール、電話で予約申込み
集合・解散場所	道の駅さんさん南三陸 北側駐車場(南三陸311メモリアル側) 〒986-0752 宮城県本吉郡南三陸町志津川字五日町200-1 https://maps.app.goo.gl/VEjfbjnKpEmDf6W37



3. 料金 ※講話の会場代は別途発生します お問い合わせ下さい

一般料金	① 講話+バス車窓案内 20名まで：1団体24,200円(税込) / 21名以上：1名あたり1,210円(税込) ② バス車窓案内のみ 20名まで：1団体12,100円(税込) / 21名以上：1名あたり605円(税込) ③ 講話のみ 1団体1回 33,000円(税込)
学生料金	① 講話+バス車窓案内 20名まで 1団体19,800円(税込) / 21名以上 1名990円(税込) ② バス車窓案内のみ 20名まで 1団体9,900円(税込) / 21名以上 1名495円(税込) ③ 震災講話のみ 1団体1回 26,400円(税込)

4. 支払い条件

支払い方法	当日現金払い・後日請求書払い 各種QR決済・クレジットカード・Suica・iD等 も対応しています	キャンセル ポリシー	7日前：体験料金の30% 前日：40% 当日：50% 当日の無断キャンセル：100%
-------	---	---------------	---

6. プログラム情報②

トイレ	南三陸さんさん商店街、JR志津川駅にあり ※プログラム実施中はトイレの時間を設けていません				
バリアフリー	ご案内中に下車する箇所があります 車いすでの参加が可能です 南三陸さんさん商店街：バリアフリートイレにオストメイト対応設備あり	買物 施設	<あり> ・南三陸さんさん 商店街 ※案内中の買い物 時間は設けており ません	食事 施設	<あり> ・南三陸さんさん 商店街 ※案内中の飲食 時間は設けており ません

7. アクセス

所在地	<集合・解散場所> 道の駅さんさん南三陸 北側駐車場(南三陸311メモリアル側) 〒986-0752 宮城県本吉郡南三陸町志津川字五日町200-1 https://maps.app.goo.gl/VEjfbjnKpEmDf6W37		
駐車場	道の駅さんさん南三陸(南三陸311メモリアル側駐車場)：普通車50台、障がい者等優先3台、大型バス7台、EV充電器1台 道の駅さんさん南三陸(南三陸さんさん商店街側駐車場)：普通車170台、障がい者等優先3台、大型バス9台		
アクセス	車	【道の駅さんさん南三陸(南三陸311メモリアル側駐車場)】 三陸自動車道志津川ICより約3分 ※仙台、松島方面からのアクセス 三陸自動車道南三陸海岸ICより約6分 ※気仙沼方面からのアクセス	
	その他	【道の駅さんさん南三陸(南三陸311メモリアル側駐車場)】 電車利用の場合 JR気仙沼線BRT志津川駅より徒歩で約1分	
各地からの 所要時間	【道の駅さんさん南三陸(南三陸311メモリアル側駐車場)】 ・仙台駅から車で約90分 ・仙台空港から車で約90分 ・松島海岸から三陸自動車道を経由して車で約60分		

8. 災害時の対応

周辺の避難場所	案内開始前に避難先の指示があります プログラム中に避難を要す場合は、その場にいる職員の指示に従い安全な高台に迅速に避難します
---------	---

9. その他

外国語対応	通訳が帯同する場合は可能
周辺施設	<p><u>ひころの里</u>:道の駅さんさん南三陸より車で約12分</p> <p><u>南三陸YES工房</u>:道の駅さんさん南三陸より車で約12分</p> <p><u>ハマーレ歌津</u>:道の駅さんさん南三陸より車で約15分</p>

10. バス車窓案内ルート (例) : 所要時間90分



11. お問い合わせ・お申込み先

一般社団法人南三陸町観光協会

E-mail: post●m-kankou.jp(●を@に変更してください)

サイト: <https://m311m.jp/visit-information/group-reservation/>(南三陸311メモリアルHP)

電話: 0226-28-9215(南三陸311メモリアル)



ご案内コース例

【語り部による学びのプログラム バス車窓案内（60分～90分）】

集
合
・
説
明

道の駅さんさん南三陸

建築家・隈研吾氏が手がけた南三陸町志津川地区のランドデザインの中核として、観光・交流の拠点に位置づけられているのが「道の駅さんさん南三陸」です。「サンサンと輝く太陽のように、笑顔とパワーに満ちた南三陸の商店街に」というコンセプトのもと、2012年2月に仮設商店街「南三陸さんさん商店街」としてスタート。その後、2017年に本設オープンを迎え、震災伝承施設「南三陸311メモリアル」、南三陸ポータルセンター、JR志津川駅と一体的に整備され、現在は道の駅として登録されています。



バス移動(約15分)

海沿いを走行し戸倉地区へ

リアス海岸の美しい景観が広がる志津川湾沿いを走行します。志津川湾は、入り組んだ地形のため外洋の荒波が届きにくく、穏やかな波が特徴です。古くから水産物の養殖が盛んで、戸倉地区の力きは、震災からの再建の過程で環境に配慮した持続可能な養殖方法へと転換し、日本で初めてASC国際認証を取得しました。



見
学

戸倉公民館(旧南三陸町立戸倉中学校)

現在は戸倉公民館として使用されている旧戸倉中学校は、1960年のチリ地震津波を受け、町の指定避難場所を兼ねて海拔約20メートルの高台に建てられました。しかし、東日本大震災では津波の高さが約22.6メートルに達し、押し寄せた津波により、校舎1階と体育館が浸水し、尊い命が失われました。

南三陸町では、戸倉中学校を含む78箇所の指定避難所・避難場所のうち、34箇所に津波が到達しました。災害時には事前の想定だけでは対応しきれない場面があること、その中で状況を見極め、自ら判断して行動することの大切さを伝えています。



バス移動(約15分) 海沿いを走行し志津川地区へ

到
着
バ
ス
下
車

道の駅さんさん南三陸

徒歩移動(約3分)

「中橋」を渡る

さんさん商店街と震災復興祈念公園を結ぶ歩行者専用の橋「中橋」は、志津川地区の復興まちづくりでランドデザインを手がけた隈研吾氏による「南三陸3部作」の一つです。地元の南三陸杉を使用した二重構造の太鼓橋で、橋の上からは復興した町の現在の姿を一望することができます。



慰
霊
・
見
学

南三陸町震災復興祈念公園

南三陸町旧防災対策庁舎

震災で犠牲となった方々を追悼・鎮魂し、震災の記憶と教訓を継承するとともに、復興への祈りを込めて整備された公園です。公園一帯は津波対策として海拔約10メートルまでかさ上げされており、旧防災対策庁舎周辺は周囲より低いくぼ地となっています。

南三陸町は旧防災対策庁舎の解体を決定しましたが、保存と解体を巡る議論が続き、その後、県有化され祈念公園に組み込まれた後、2024年3月、町が再び所有・管理し、震災遺構として保存することが正式に発表されました。

